

②どんなほめ方があるの？



「すごいね！」というほめ言葉以外、思いつかないなあ

「じょうず」とほめているのだけど、嬉しそうじゃないの



「ほめる」というと、ほめ言葉をイメージしますが、実は言葉以外にもほめ方があります。また、子どもによって嬉しいと感じるほめられ方は違います。子どもにあったほめ方をすることが大切です。

ほめ方その1 言葉でほめる

- 子どもの行動そのものをほめる
「上手だね」 「すごいね」 「頑張ったね」 など
- 感謝の気持ちを伝える
「ありがとう」 「〇〇してくれて嬉しいな」 「助かったよ」 など

ほめ方その2 身振りやボディタッチでほめる

- 身振りでほめる
拍手をする、グーサインをする など
- ボディタッチでほめる
頭をなでる、抱きしめる、ハイタッチする、くすぐる など



年齢の小さい子どもには、ほめ言葉だけではなく、身振りやボディタッチも用いるとより、大人がほめていることが伝わりやすくなります

ほめ方その3 子どもにとってのご褒美を使う

特に苦手なことや難しいことに取り組めた時には、子どもにとってのご褒美を使うのもよいでしょう。

例えば、

「ご飯を全部食べられたから、一緒に大好きな塗り絵をしよう」

「お手伝いができたから、おやつを食べよう」 など



子どものやる気を引き出すために

「お着替えしなさい」、「お着替えしなかったら遊べないよ」、「お着替えできたら遊べるよ」という 3 つの声掛けのうち、どの声掛けが子どものやる気を引き出すことができるでしょうか？

おそらく、「お着替えできたら遊べるよ」という声掛けが、子どもも嬉しい気持ちで取り組むことができそうですね。

何をしたら、どんな良いことがあるのかを伝えることで、子どものやる気を引き出すことができます。

普段の声掛けを振り返ってみましょう。

言葉だけでは伝わりにくいときには、ホワイトボードなどに、イラストや文字で書いて伝えてあげると、より伝わりやすくなるかもしれません。

